経営比較分析表（令和6年度決算）

千葉県　神崎町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	93.05	82.11	4,400	

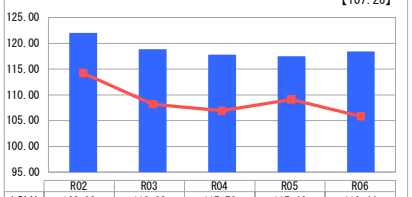
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
5,634	19.90	283.12
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
4,802	22.19	216.40

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

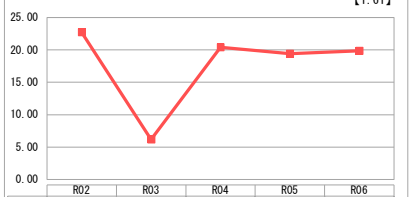
【107.26】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	122.02	118.82	117.76	117.48	118.44
平均値	114.22	108.19	106.93	109.12	105.82

②累積欠損金比率(%)

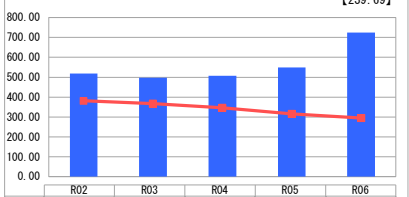
【1.61】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	22.71	6.17	20.41	19.42	19.85

③流動比率(%)

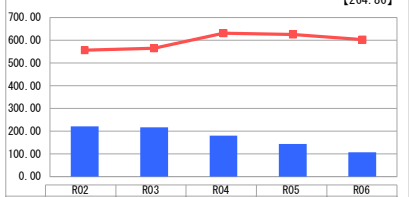
【239.69】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	518.85	496.76	505.94	548.50	724.83
平均値	381.07	367.40	345.42	315.60	294.89

④企業債残高対給水収益比率(%)

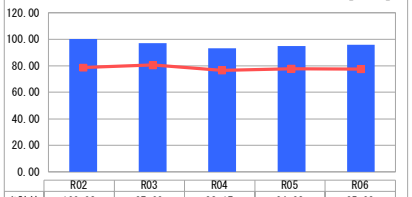
【264.86】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	222.16	217.28	181.00	144.53	107.81
平均値	556.47	564.99	631.39	625.11	602.79

⑤料金回収率(%)

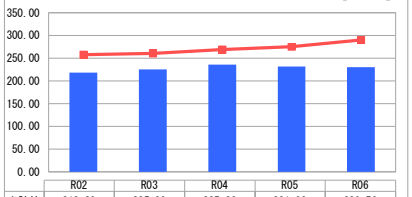
【97.59】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	100.03	97.09	93.17	94.92	95.98
平均値	78.67	80.56	76.55	77.74	77.46

⑥給水原価(円)

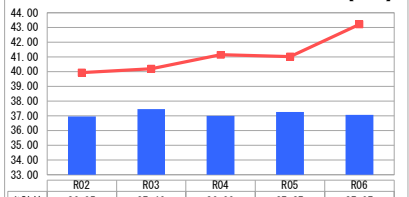
【181.66】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	218.29	225.80	235.86	231.98	230.50
平均値	257.95	260.87	269.25	274.94	290.03

⑦施設利用率(%)

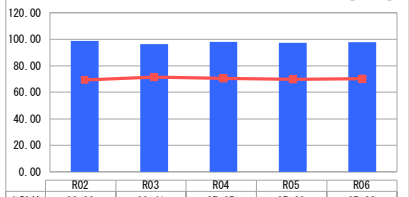
【60.21】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	36.95	37.46	36.99	37.27	37.07
平均値	39.94	40.19	41.14	41.02	43.22

⑧有収率(%)

【89.21】

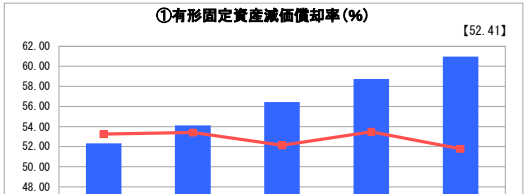


	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	98.88	96.41	97.97	97.30	97.83
平均値	69.41	71.52	70.42	69.90	70.16

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

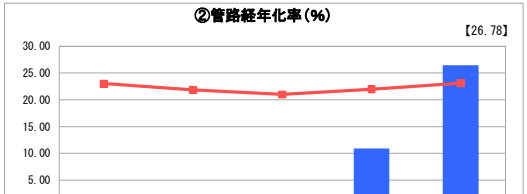
【52.41】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	52.35	54.11	56.45	58.72	60.96
平均値	53.25	53.40	52.14	53.49	51.79

②管路経年化率(%)

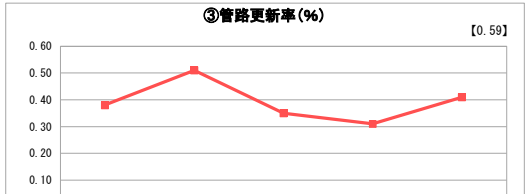
【26.78】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	0.00	0.00	0.00	10.90	26.48
平均値	23.02	21.86	21.01	21.96	23.12

③管路更新率(%)

【0.59】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.38	0.51	0.35	0.31	0.41

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率について全国・類似団体平均値より高い水準にあり、また、基準となる100%を上回っている。
②累積欠損金比率は、累積欠損金が発生していないため該当なし。
③流動比率は、基準となる100%以上、平均値以上であり十分な支払い能力があると考えられる。
④企業債残高対給水収益率は、施設等更新のための企業債等の借入れが増加すると上昇傾向が見込まれる。
⑤料金回収率は、供給単価を給水原価が若干上回っている。高料金対策として、基準外繰入を受けているため100%を下回っている。
⑥給水原価は、経常経費が減少したことで、前年度より微減しているが、施設や管路の更新による減価償却費費用の構成割合が高くなると増加が見込まれる。
⑦施設利用率は、水道施設工事が完了した後、当初計画された住宅団地開発が予定戸数を大きく減らして販売したため、計画人口と大きな差異が生じており現況では改善することは出来ない。
⑧有収率は、経年管の廃止及び配水量の監視を行っているため平均値以上となっている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、昨年度より上昇しており、今後、固定資産の適正な更新計画や財源の確保が必要となる。
②管路経年化率は、昨年より上昇しており、管路の老朽化が進行している。
③管路の更新については、管路経年化率が上昇傾向にあることから、計画的・効率的な更新に取り組んでいく必要がある。

全体総括

①経営の健全性・効率性
有収率は、経年管の廃止及び配水量の監視により平均値以上となっているので、今後も継続していく必要がある。
　近隣市町との広域化については、香取市・多古町と「香取ブロックにおける広域連携に係る検討会」を設置し、経営改善、経営強化のため様々な方法について定期的に検討をしていく必要がある。
②老朽化の状況
管路経年化率が上昇しているため、管路の更新を推進し、安定した水道供給を継続する必要がある。